

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	ききたまこふんぐん 埼玉古墳群	国史跡	東日本最大規模の古墳群。忍城水攻めの際には、石田三成率いる豊臣秀吉軍の本陣が丸墓山古墳墳頂に置かれた。	
2	おしじょうあと 忍城跡	県旧跡 *旧跡は史跡に準ずるもの	城下町行田の発展の基礎となった城。沼地と河川を巧みに利用して築かれ、石田三成の水攻めにも耐え「浮城」、「水城」とも呼ばれた。現在、本丸跡には行田市郷土博物館が開設され、足袋関連資料も展示されている。	
3	いしだづつみ 石田堤	県史跡	石田三成率いる豊臣秀吉軍が忍城を水攻めするために自然堤防上に築いた堤。	
4	きようほうねんかんぎようだまち え ず 享保年間行田町絵図	未指定	享保年間（1716～1735）頃の行田町の絵図。3軒の足袋屋が記載されており、この時期に既に行田で足袋づくりが始まっていたことが伺える。	
5	あきやまけもんじよ 秋山家文書	未指定	行田町有数の老舗足袋商であった秋山家に伝来した文書群。江戸時代後期の足袋製造や経営を知るうえで貴重な資料である。	
6	てんほうねんかんぎようだまち え ず 天保年間行田町絵図	未指定	天保年間（1830～1844）頃の行田町の絵図。27軒の足袋屋が記載されており、当時の行田町で足袋屋が他のどの業種よりも件数が多くなっている状況がわかる絵図である。	
7	おおさわきゆうう えもんけじゆうたく 大澤久右衛門家住宅・ どぞう 土蔵	未指定	江戸時代の行田町最大の豪商であった藍染の綿布問屋の江戸時代後期建設と思われる住宅と土蔵。土蔵は現存する最古の足袋蔵で、弘化3年(1846)の大火の際には、この2棟が延焼を食い止めた。	
8	はつうままつ 初午祭り	未指定	弘化3年(1846)の大火を契機に行田町周辺で始まった火除けの祭礼。足袋蔵の脇にある屋敷稲荷で執り行われており、足袋蔵と共に行田の裏通りの景観を形づくる風物詩となっている。	
9	いまづいんきつじよみせぐら しゅや 今津印刷所店蔵・主屋・ どぞう 土蔵	市指定建造物	足袋のラベル（ペーパー）の印刷に携わった老舗印刷屋の江戸時代後期建設と思われる店蔵・主屋、明治時代建設と思われる土蔵。明治・大正期の当主今津徳之助は、忍町商工会会頭として足袋産業の発展にも大変尽力した。	
10	もりけどぞう こああん 森家土蔵・古蛙庵	未指定	嘉永3年(1850)と明治45年(1912)棟上の2棟の土蔵造りの足袋蔵。前者は既存の土蔵を明治時代に足袋蔵に転用したもので、現在は私的な民芸館「古蛙庵」として活用されている。	

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1 1	ぎょうだ たびせいでょうようぐおよ 行田の足袋製造用具及び せいひん 製品	国登録有形民 俗	行田市郷土博物館所蔵の行田足袋の製 造が手縫いから機械化へ変化していく 変遷を示す貴重な資料 4971 点。	
1 2	たかはしけ ぼしょうく ひ 高橋家の芭蕉句碑	市史跡	「名月の花かと見えて綿ばたけ」の句 を刻んだ芭蕉句碑。碑が建立された明 治 9 年(1866)頃には、この地域で足袋 の布地の原料となる綿の生産が盛んで あったことがわかる。	
1 3	じゅうまんごく さやぎょうだほん 十万石ふくさや行田本 てんでんぼ 店店舗	国登録建造物	明治 16 年(1883)棟上の元山田呉服店の 重厚かつ豪勢な店蔵。後に足袋蔵に転 用され、現在は埼玉県を代表する和菓 子店の店舗となっている。	
1 4	まきのほんてんみせぐら しゅや ど 牧野本店店蔵・主屋・土 ぞう たび とくらしの ほんぶつ 蔵・足袋とくらしの博物 かん 館	未指定	大正 13 年(1924)棟上の豪勢な店蔵・主 屋、明治 32 年(1899)棟上と建築年代不 明の 2 棟の土蔵造りの足袋蔵、大正 11 年(1922)棟上の足袋工場が残る元足 袋商店の建物群、現在工場は N P O 運 営の博物館となっている。全盛期の足 袋商店の様相を現す建物群である。	
1 5	ときたけじゅうたく ・ときたぐら 時田家住宅・時田蔵	未指定	元時田啓左衛門商店の昭和 15～16 年頃 建設の和洋折衷住宅、明治 36 年(1903) 竣工と大正初期頃建設の 2 棟の土蔵造 りの足袋蔵。足袋蔵は、行田市内では 珍しい袖蔵形式である。	
1 6	ほずみぐら 保泉蔵	未指定	元行田随一の足袋原料商店の昭和元年 (1926)建設の石造の店蔵・主屋、明治 後期と大正 5 年(1916)建設の土蔵、昭 和 7 年(1932)棟上の石蔵、昭和戦前期 建設のモルタル蔵。敷地東側に店蔵・ 主屋・足袋蔵 3 棟が一行に並ぶ蔵並み は圧巻で、時代による足袋蔵の変遷も 理解できる。	
1 7	たびぐら 足袋蔵まちづくりミュー ジウム (栗代蔵)	未指定	明治 39 年(1906)建設の元栗原代人商店 の土蔵造りの足袋蔵。現在は N P O 運 営の観光案内所兼まちづくり情報セン ターとなっている。	
1 8	かんきよ たびぐら Café閑居・足袋蔵ギャラ リー門・パン工房 KURA・ かど こうぼう クチキ建築設計事務所・ けんちくせつけいじむしょ 土蔵	未指定	元奥貫忠吉商店の昭和 5 年(1930)棟上 の住宅、明治 43 年(1910)棟上・大正 5 年(1916)棟上の洋小屋の土蔵 3 棟と建 築年代不明の土蔵(いずれも足袋蔵)。 足袋蔵の 1 棟は市内唯一の 3 階建ての 蔵である。住宅と足袋蔵 3 棟が様々な 形で再活用されている。	
1 9	くさおぐら 草生蔵	未指定	明治 43 年(1910)建設と伝えられる元 金楽足袋株式会社の石造の足袋蔵。建 築年代に疑問はあるが、最初期の石造 の足袋蔵の代表例である。	

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
20	イサミコーポレーション スクール工場・事務所 ・土蔵・モルタル蔵・木造 倉庫	未指定	イサミコーポレーションの大正6年(1917)建設のノギリ屋根の旧足袋工場、翌年建設の事務所、大正～昭和初期頃建設の工場(当初は講堂・寄宿舎・食堂)、土蔵(足袋蔵)、木造倉庫(足袋蔵)、昭和13年(1938)棟上のモルタル蔵(足袋蔵)。初期の大規模足袋工場の姿を伝える建物群。	
21	田代蔵	未指定	元田代鐘助商店の大正時代建設の住居と土蔵(足袋蔵)、昭和2年(1927)建設の店舗・主屋と土蔵(足袋蔵)の5棟が、短冊形の敷地に一列に並んで建てられている。	
22	旧忍町信用組合店舗	市指定建造物	大正11年(1922)建設の木造洋風銀行店舗。足袋商店主たちが出資して創業した地元金融機関の創業時の店舗で、足袋産業の発展を支えた。	
23	大澤家住宅旧文庫蔵・ 住宅・土蔵	国登録建造物	行田の足袋産業発展に尽力した大澤商店の7代大澤専蔵が大正15年(1926)に竣工させた行田市唯一のレンガ造の足袋蔵、同じく昭和3年(1928)に竣工させた店舗併用住宅。明治末頃建設と伝えられる土蔵造りの足袋蔵。	
24	旧小川忠次郎商店店 舗及び主屋	国登録建造物	足袋原料を扱った小川忠次郎商店が大正14年(1925)に棟上した土蔵造りの店舗併用住宅。現在はNPO運営の蕎麦店となっている。	
25	奥貫蔵(あんど)	未指定	奥貫忠吉商店が大正～昭和初期に建設した大型の土蔵造りの足袋蔵。現在は蕎麦店として再活用されている。	
26	行田窯	未指定	荒井八郎商店が昭和初期頃に建設した元足袋原料倉庫。曳家され、約1/3の大きさになって陶芸窯として再活用されている。現存する数少ない木造の足袋蔵として貴重である。	
27	鯨井家倉庫	未指定	昭和3年(1928)に建設された鉄筋コンクリート造の元足袋原料倉庫(足袋蔵)。現存する行田市唯一の戦前の鉄筋コンクリート造の足袋蔵である。	
28	イサミコーポレーション 足袋工場	未指定	昭和初期の建設と思われるノギリ屋根の木造洋風足袋工場と元食堂。足袋生産の拡大で、大規模工場が郊外に建てられていった昭和初期の行田を代表する足袋工場である。	
29	時田足袋蔵	未指定	元時田啓左衛門商店の昭和4年(1929)棟上の大型の土蔵造りの足袋蔵。足袋産業の発展とともに足袋蔵が大型化していったことがわかる。	

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
30	むさしのぎんこうぎやうだしてんぼ 武蔵野銀行行田支店店舗	国登録建造物	足袋産業の資金面を支えた忍貯金銀行が昭和9年(1934)に竣工させた本格的銀行建築の店舗。戦後は足袋会館(足袋組合事務所)となり、現在は武蔵野銀行店舗である。	
31	きゅうあらいはちろうしやうてんじむしよ 旧荒井八郎商店事務所 けんしゅや おおひろまどう ようかん 兼主屋・大広間棟・洋館	国登録建造物	行田足袋被服工業組合の理事長を務めた荒井八郎が昭和12年(1937)に棟上した事務所兼主屋等3棟。「足袋御殿」とも呼ばれ、地域の迎賓館としての役割も果たした。現在は和牛懐石「彩々亭」の店舗となっている。	
32	あいぞめたいけんこうぼう まきていしや 藍染体験工房「牧禎舎」	未指定	昭和15年(1940)竣工の元牧禎商店の事務所兼住宅と足袋被服工場。現在はNPO運営のアーティストシェア工房&藍染体験施設となっている。	
33	フライ	未指定	小麦粉を溶いてねぎを入れ、薄く延ばして焼き上げたお好み焼きに似た郷土料理。足袋工場に勤める女工さんのおやつとして普及した。	
34	ゼリーフライ	未指定	おからとジャガイモを混ぜて揚げたコロケに似た郷土料理。足袋工場に勤める人々に、おやつとして愛されている。	
35	ぎやうだ ならづけ 行田の奈良漬	未指定	足袋商店が得意先への贈答品として愛用している行田の奈良漬。足袋産業全盛期には、足袋商店の店先に漬物樽が持ち込まれ、そこで漬けて持ち出されていた。	
36	こうしぐら 孝子蔵	未指定	大木末吉商店が昭和26年(1951)に棟上した石造の足袋蔵。木材不足から極力木材を使わずに建設されている。戦後の行田を代表する足袋蔵である。	
37	くりはらげ 栗原家モルタル蔵	未指定	昭和28年(1953)に館林市の農家の米蔵を移築した元福力足袋有限会社のモルタル造の足袋蔵。数少ない戦後の移築転用された足袋蔵である。	
38	こぬまぐら 小沼蔵	未指定	昭和29年(1954)建設の元豊年足袋本舗の大谷石造の足袋蔵。戦後の行田の足袋蔵の代表例である。	
39	ぎやうだたび 行田足袋	未指定	行田に本社を置く足袋商店が製造する足袋。地域ブランドとして多方面に発信している。	
40	けいちやう 慶長17年武蔵国酒巻 むらねんぐわりつけじやう 村年貢割付状	未指定	慶長17年(1612)の酒巻村の年貢割付状。畑の年貢として木綿が書き上げられ、江戸時代初期にすでに行田市域で木綿が栽培されていたことがわかる。	
41	おくぬきけどぞう 奥貫家土蔵	未指定	大正時代の建設と伝えられる元奥貫忠吉商店の土蔵造りの足袋蔵。同商店は市内数か所に足袋蔵を建設しており、この蔵もそのひとつである。	

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
4 2	かきはらげじゅうたく 笠原家住宅	未指定	昭和 6 年(1931)建設と伝えられる元足袋原料商店の店舗併用住宅。その後足袋卸売商の店舗併用住宅、旅館、バーと用途が変わり、現在は住宅となっている。昭和戦前期の姿を良く留めている。	
4 3	ぎょうだおんど 行田音頭	未指定	行田の足袋産業が不景気にあえいだ昭和 9 年(1934)に、当時の忍町長の発案で不景気を吹き飛ばそうと西條八十、中山晋平に依頼して制作した音頭。「足袋の行田を思い出す」等、歌詞にも足袋のことが歌われている。	
4 4	がくやたびぐら 楽屋足袋蔵	未指定	昭和 20 年代後半の建設と伝えられる楽屋足袋の石造の足袋蔵。戦後の行田を代表する足袋蔵のひとつである。	